

たくぼん思いつき企画

第1回

## どこにも出せない普通詰将棋 作品展

きつこんな企画でもない限り闇に消えるしか  
ない作品達。

どこにも出せない理由はいろいろですが、  
きつそれを跳ね返す輝きを見せてくれることで  
しょう。

### 解答規定

【出題】 平成19年6月1日(金)

【解答締切】 平成19年6月30日(土)

【結果発表】 平成19年7月1日(日)

解答はメールにて

宛先:takuji@dokidoki.ne.jp

解答は略記 OK.短評(長評)歓迎。  
コメント等は結果稿に全文掲載しますので了承くだ  
さい。敬称は略させてもらってます。  
ソフト解答も可ですが、その場合は必ずその旨記入  
し短評を記入下さい。

呈賞:3名(金運グッズ)←全解答者から抽選

なお本作品展は平成19年度看寿賞対象作品展  
とします。

第1番

C 作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						香	王		三
						銀	王		四
						銀	王	金	五
						香		歩	六
									七
									八
									九

持駒 香2

【コメント】

わざわざペンネームを使わないと発表できない作品です。作者名も含めて1つの作品として成り立っていますので、その所ヨロシクお願いします。今年の秋に、万が一「やった～」と言うことにでもなれば看寿賞にもエントリーされるのではないかと期待しています。なお原作者は KUMA 氏で、私がそれを貰ったものです。

これだけ説明しなければいけないと言う理由でどこにも発表できません。(笑) えっ？私って誰って？それは解けば分かるでしょう。

第2番

隅の老人 B 作

命名「私の鶏肋」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				香					一
			王			と			二
			と	王		香			三
			香	王					四
			王		香				五
			馬			龍			六
									七
									八
									九

持駒 桂2歩

【作者コメント】

どこにも出せない？ 図、題して「私の鶏肋」

ある日、香竜会の幹事、あっちゃんよりメール来信。「今度、パラ誌で香竜会作品展を開催します。規定は手数が27手以下だけ。参加しませんか？」のお誘い。へボの私に創れる筈がない、出来るかな？出来るかも、です。創り始める前に、ふと名案が浮ぶ。「創れない公算が大、安全牌にピンチヒッターをたてよう」思いついたら何とやらで、直ちに、棋友の隅の老人Aさんにメール。「かくかくしかじか、創ってください。香竜会用なので、頭文字のKのあぶり出しで、お願いします」

Aさんより返メールあり、「OK」逃げ道は作った。これであっちゃん

んに創れなくとも、顔が立つ。Aさんはあぶり出しなら、私は象形で創ろうと決める。悪戦苦闘の数日、へボ考え休みに似たりで、添付の図を捻り出す。見苦しい成桂の配置は、象形なのでお許し頂くとしても、あれ余詰があるよ、泣く泣く、51歩を配置する。加えて、手順前後が2カ所、手数は27手を越えている。やはり、私には創作はムリ、止めです。

Aさんより「出来たよ」と2作がメールで到着。餅は餅屋で、さすがAさんは巧み。2作揃って、上々の出来映え。

あっちゃんへメール。「努力しましたが、才なし創れず。代わりにAさんの2作品を添付します。Aさんは、どちらか一方を、あっちゃんに選んでもらってね、です」

そして、私も努力した証拠として、没と書き加えて愚作を添付。

後日談。香竜会作品展開催。Aさん作は、「難しい作品は解答者が少なくなる」の理由で、あっちゃんは易しい方？をパラ誌に載せました。解説は短大の石黒教授でお褒めのお言葉、解答者にも好評頂戴。

石黒先生、解説の末尾に曰く、「短大へも投稿のほどを」

で、残った1作を、更に推敲(ここがAさんの良い処)して、短大へ。パラ誌5月号に載っています。解説発表は先ですが、これも好評は確実。不肖私が太鼓判。愚作へのあっちゃんの感想、「少し難しいが、でもね……」

出来は悪いが、我が子は可愛い。こんな理由で何処にも出せない。たくぼさんの企画に乗じて、みんなに顔を見てもらえたら。題して、「私の鶏肋」こんな思いの投稿、よろしく、お願いします。

### 第3番 隅の老人 A 作

命名「原石」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					と				五
				料	歩	王			六
					罎				七
					銀		飛		八
				馬					九

持駒歩

#### 【コメント】

隅の老人 B さんから「鶏助」が寄せられたと思います、私も協力したいと思います。

添付図は題して「原石」。投稿できない理由は、香竜会の「K」になってしまった。

この様な易しい作が集まるとは思えません……

第4番 隅の老人 A 作

命名「風車」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			と	馬					二
	銀			歩					三
	歩			王		車	と		四
	銀	車					歩		五
	金						王		六
	桂	王		桂			金		七
				銀					八
	角			歩		車	飛		九

持駒 香

【コメント】

題して「風車」、出せない理由は「昭和 29 年風ぐるま 1 月号」発表の改作。原図は「風みどりの玉手箱」いろはカルタ回転追に展示中ですが、この「風車」が貴 HP に載ったとして、解説時には原図も並記して頂けると嬉しいです。  
詰将棋も50年以上昔の作品は古色を隠せず、原図は私の自信作とは言え、今見ると古き時代を感じざるを得ない。改作図は原図を今風にアレンジして、終盤の疵を消し、手数も自作の「風ぐるま II」の101手詰に揃え、密かに納得している。唯、この改作図は詰棋界に残すことが目的ではなく、せめて今回の企画に参加せねば、の思いです。

第5番 岩田俊二 作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		車			銀		銀		一
			車			車			二
車	歩	王		歩			桂		三
馬		歩		金					四
						飛		銀	五
		桂							六
			王						七
									八
									九

持駒 なし

【コメント】

私は、どこにも発表できない作品、を作るのが得意なのです。なので、そういう作品の投稿場所があると、とても嬉しいです。ということで、1作投稿します。

詰パラ大学の手数(45 手詰)なのに、内容的に大学レベルに達していないという、困った作品です。

第6番 オタマジャクシ 作

				歩			王	銀		一
	と					歩				二
歩			歩			と				三
		歩			王					四
		銀			歩					五
	桂					王				六
	香	桂		桂				銀		七
		金		王	香	歩				八
王	金				飛		龍			九

持駒 歩3

【コメント】

「おもちゃ箱」に投稿してボツになり、お蔵入りしていた作品です。

この作品に費やした膨大な時間は、いったいどこにいったしまったのでしょうか…悲しかったです。ぜひ救って欲しいです。

第7番 齋藤夏雄 作

										一
										二
										三
										四
									歩	五
					馬		王	王		六
				角						七
								王		八
										九

持駒 飛銀

b) 玉方3五銀を追加

【コメント】

どうしようか迷っていましたが、昔創ったツイン作を「どこにも出せない普通詰将棋」に投稿しておこうと思います。

それぞれの作品は、詰将棋としてはこれ以上はないという絶連で手順的には全く見るべきものはありません。あくまで2作セットです。詰め上がりに一応ある種の対照を持たせたつもりですが、果たして見る人がそう感じてくれるかどうか。

ともあれこのまま捨てるのも何なので、お送りしておきます。

よろしくお願ひします。

## 第8番 利波 偉 作

命名「春棋会に捧ぐ」

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	と		と	と	と	と	と	と	馬	
二	香	科							鯨	
三		雫		フ	フ	雫	雫	雫	雫	
四	科		と	と	と			飛	杏	
五		と	と	と		王			手	
六	銀	雫	雫	雫					飛	
七	星	科						金		
八								卒		
九		歩								

持駒 なし

### 【コメント】

春棋会というのは今から30年位前に柳原裕司さんが作った会で、私は最初から同人として参加し、後には飯田繁和氏・伊藤正氏・大西宏明氏等のビックネームも加わった。最初は柳原氏が代表で私が引き継いだりもした、でも5年くらいで終結した。それは、柳原氏が社会人になり、私は受験になり編集長をやる人材が居なくなったこと、五年くらいが矢張り区切りだったからにも思う。その最終号に載ったのがこの作品で、結果発表も当然無かった。当時の作品は余詰があって今回修正したが、非限定やキズもあって、雑誌にはとても投稿できないし、またそういったレベルの作品では無い。今回陽の目を見せて、十

代のころの詰将棋人生について清算したいので投稿しました。しかし時が流れて、今も詰将棋会に春棋会出身でいるのは、伊藤正さん(は詰将棋の詩出身だけど)と岡本正貴さんくらいで、時の流れと趣味でも継続することが如何に難しいかを感じさせられました。

\*\*\*\*\*

### 【おわりに】

今回の作品展は、手数長いものが多くややハードかもしれませんが、手数のヒントを書いておきます。

1番:高校級、2番:大学級、3番:小学校級、4番:大学院級、5番:大学級、6番:大学級、7番:共に短大級、8番:大学院級。

7番は掲載図を(a)として、玉方三五銀を加えた作を(b)として2作セットで評価下さい。

今回はあえて作者のどこへも出せない理由を全文掲載いたしております。各々の作品には出せない理由がさまざまあり、それはまた一つの物語として作品からの声として聞こえてくるようです。

自力解答できなかった方は、ソフトで解答した旨を書いていたければ評だけでも結構です。よろしく願います。

たくさんの解答が集まることを祈念しております。

たくぼん